創作幼年童話

太郎（たろう）コオロギ

今西祐行　え・中尾　彰

NDC 913

創作幼年童話

太郎(たろう)コオロギ

今西祐行(いまにしすけゆき)著

小学1～4年生向

実業之日本社

1965年

142ページ

21.3cm

本文活字4号新楷書体使用

1965年8月15日
初版発行

1971年4月25日
9版発行

著者　今西祐行

発行者　増田義彦

印刷所　株式会社 東京研文社

発行所　株式会社 実業之日本社

104 東京都中央区銀座1の3の9
TEL (562) 4311 (大代), 振替東京326

© Sukeyuki Imanishi, 1965
Printed in Japan

8093—802561—3214

著者の了解により検印省略

創作幼年童話

太郎（たろう）コオロギ

今西祐行

あかんぼうのきものは、ちょうど夕やけの雲のようでした。　　カキの実　(112ページ)

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

☆ ★ ☆ ★ ★ ☆

はじめに

わたくしは、小さいときから、いつもあたたかい心につつまれて、そだてられてきたようにおもいます。

おとうさん、おかあさん、先生、友だち、きょうだい、そして空をはしる雲、野にさく草や木さえも、いつもわ

☆ ★ ★ ☆ ★ ☆

たくしを、あたたかく見まもってくれたようにおもいます。ですから、戦争にいっても、人をころさずにすみましたし、どんなにかなしいめにあっても、くじけずにこれたようなきがします。

そんなたくさんたくさんの、わたくしをつつんでくれたあたたかい心に、感謝するきもちでかいたのが、この本のお話です。

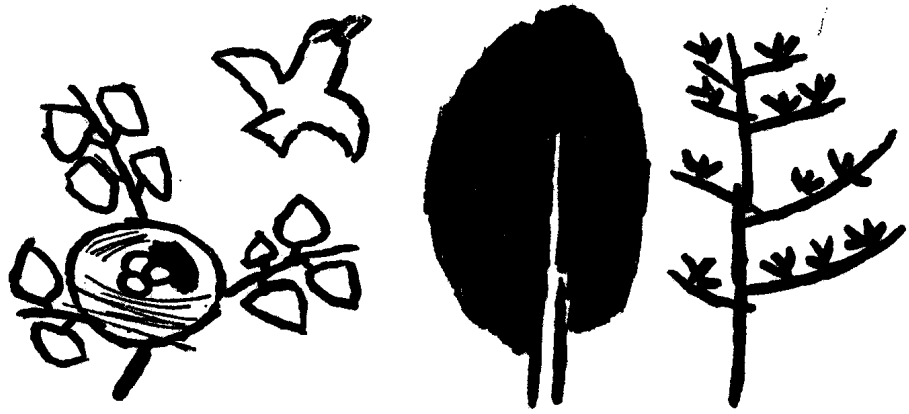
よんでみてください。

今西祐行

もくじ

太郎コオロギ……10
マヒルガオの小さな海……17
月とべっそう……26
ひとつの花……35
空のひつじかい……45

ゆみ子のリス……59
ネズミの春……70
小さなバイオリンひき……80
月とゴイサギ……88
ネコちゃんの花……92
カキの実……109
天使とくつした……121
あとがき……140



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

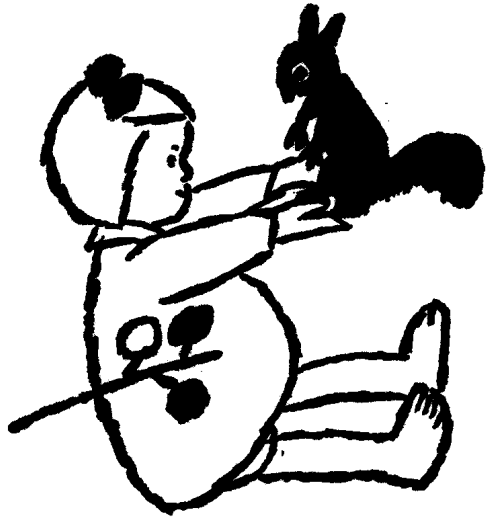
この本のお話をかいた人

今西祐行　一九二三年、大阪府生まれ。小中学生時代を奈良県生駒山麓にすごしました。早稲田大学卒。代表的な作品に『ねことオルガン』『肥後の石工』『あるハンノキの話』『浦上の旅人たち』などがあります。日本児童文学者協会賞・NHK児童文学奨励賞・野間児童文芸賞などを受賞。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

この本の絵をかいた人

中尾　彰　一九〇五年うまれ。島根県出身。洋画家および童画家としてよくしられています。素朴な味わいのある画風。独立美術協会所属。



此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

太郎コオロギ

たしか、まだ二年生か三年生のころでした。わたしは、父のしごとのかんけいで、しばらくさびしい山おくの小学校に、かよったことがありました。

ほんとうに小さな学校で、ろうかときょうしつのあいだには、紙しょうじがはいっていました。うんどうばは、道をひろくしただけのところで、たいそうをしていると、ときどきウシがモーとなきながら、車をひいてとおりました。

となりの町の小学生たちは、

「しょうじ学校の、道うんどう。」

と、わたしたちの学校のことを、ひやかしていました。

その学校のわたしの組に、太郎というたいへんいたずらっ子がいました。太郎は、がきだいしょうでいばっていましたが、とかいからきたわたしには、なんとなくしんせつにしてくれました。

「ええか、おまえをいじめるやつがいたら、こっそりおれにいえ。そしたら、おれがそいつをなかしてやるからな。」

そんなことを、いってくれたりしました。

太郎は、しのちゃんという女の子とならんでいましたが、ふたりのつくえの下には、ひみつがありました。つくえの下のゆかいたに、ふしあなをけずったあながありました。もちろん、太郎がけずったものです。

太郎は、ときどき、いりマメなどをポケットにしのばせてきて、こっそりきょうしつでたべました。マメのかわは、そのあ

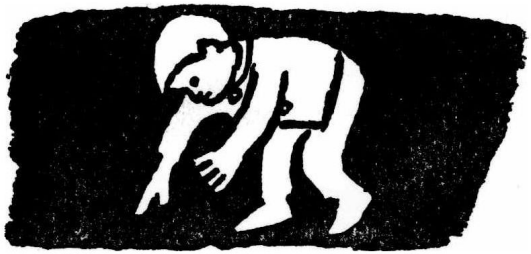
なにおとしますし、えんぴつのけずりかすなども、すてていました。

また、そのあなには、木のわかえだをけずってつくったかたながが、なん本もかくしてありました。やすみ時間になると、そのかたなをふりまわして、女の子や、よわい子をおいまわすのです。みんなそれをしっていましたが、こわくてだれも先生にいいつけませんでした。

ある日、しのちゃんが、小さなブラシのついたあたらしいけしゴムをもってきました。

「なかなかいいものをもってきたな。よしよし、つかってやるぞ。」

太郎はそういって、さっそくなにやらごしごしとけしはじめました。ところが、手がすべって、しのちゃんのだいじなけし



ゴムが、ひみつのあなからおちてしまいました。しのちゃんは、なきだしそうでした。

「よわむし、なくな。おれがいま、とってきてやる。」

と、太郎はすぐきょうしつをとびだしていきました。

どこからもぐりこんだのか、太郎はきょうしつのゆか下にはいっていきました。でも、ゆかの下はくらくて、クモのすやほこりだらけで、なかなかみつかりそうにありません。そのうちにじゅぎょうのはじまるかねがなってしまいました。

しのちゃんはこまって、じゅぎょう中も下ばかり見ていました。そして、とうとう先生にみつかってしまいました。

「しの、下ばかり見て、なにしてる。」

しかし、しのちゃんは、じぶんのけしゴムをとりにいってくれた太郎を、先生にいうのはわるいとおもいました。そのとき、

ゆかの下で太郎(たろう)におわれたコオロギがいっぴき、あなからとびだしてきました。

「コオロギが、ないているんです。」

と、しのちゃんはとっさにそんなことをいってしまいました。

「なに、コオロギ？　なんてないている。先生におしえておくれ。さあ……。」

先生は、そういって、しのちゃんにコオロギのなきまねをさせました。

「リ、リ……。」

と、しのちゃんは、いいかけましたが、みんなが、どっとわらったので、目になみだをためて下をむいてしまいました。

ところがそのとき、ゆかの下から、しのちゃんのあとをうけて、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com